

平成30年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

令和元年 1 1 月

はじめに

下呂市では下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

下呂市教育委員会では毎年、「学校教育」、「社会教育」の各分野における方針と重点を定め、各種施策に取り組んでいるところです。

令和元年11月

下呂市教育委員会

平成30年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【方針】

◇児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する

◇学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

【指標】 魅力ある学校づくりに向けて

① 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。

② 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。

※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実

《指標結果》

① 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区 分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
目 標	82.0	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実 績	93.8	93.7	94.2	94.9	94.8	95.2	94.9	95.5	94.7

② 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区 分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
目 標	82.0	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実 績	93.7	94.1	94.0	95.0	93.7	95.3	95.1	95.7	95.3

〈総評〉

- 平成17年度より設定した指標に対する評価数値は年々高くなっており、目標値9割を超える児童生徒が学校生活への満足感や授業への充実感を得ていることが分かる。各校における教育活動の充実を表す一つの指標と捉えることができる。
- 一方で、満足感や充実感を得られていない「残り数%」の児童生徒に焦点を当てた指導や支援も必要であり、児童生徒個々の特性や実態、背景等を把握し、きめ細かな指導や支援を継続している。「個に力をつける」「個に返す」ことを意識した指導や支援を継続したい。
- 教職員の指導力向上を図ることが、児童生徒の確かな学力の定着や健やかな成長につながることから、学校訪問での指導や研修などの充実をしてきた。同時に、管理職やミドルリーダーが十分に指導性を発揮し、組織力を高めることも重点として指導してきた。それにより、各校では長期と短期の指導目標を定め、PDCAのサイクルにより全職員で共通理解・共通実践する仕組みづくりがなされてきた。
- 各学校においては、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、家庭・地域と一体となって学校経営に取り組んでおり、成果ができています。生きる力を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む調和のとれた教育の充実をめざし、学校指導を充実させたい。
- 大きく変化する社会を生き抜く子供たちには、自ら課題を見出し主体的に学ぶ力や、仲間と協働して課題を解決する意欲や力等をつけなければならない。そうしたことを踏まえ、31年度からは「学ぶことが楽しい」を設定指標に加え、評価することとしている。

2 重点における評価

(1)「確かな学力」の定着を図る指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力学習状況調査の結果分析と「指導改善プラン」の作成
- ・C R T調査をもとにした個々の児童生徒の実態把握
- ・授業の終末における、評価問題や補充問題の確実な実施
- ・少人数指導等の実施：少人数指導加配、教科専門配置校（萩原小、下呂小、萩原南中、下呂中）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・I C Tや具体物を活用した授業

【成果・評価】

□全国学力学習状況調査

- ・市全体の平均正答率は、小学校の国語、算数、中学校の国語で全国や県の平均正答率を上回っており、学力定着の成果は出ている。＊中学校の数学は全国とほぼ同じ。
- ・きめ細かな分析による教科指導の工夫や授業改善、子供たち自らも授業のあり方を考える取組等による学習規律の安定や学習集団の向上で、調査結果が良好な状態は続いている。
- ・質問紙調査や魅力ある学校づくりのための設定指標調査においても、「授業がわかりやすい」と答える児童生徒の割合は90%を超えている。今後は、「わかる」だけでなく「楽しい」と答える児童生徒の割合にもこだわり、「学ぶに向かう力」を高めていく必要がある。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・主幹教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・障がい児教育支援委員会充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実 市費28名 県費5名

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的学級	自閉情緒学級	難聴学級	言語通級教室	LD/ADHD等通級教室
小学校	10校	5校	1校	2校	4校
中学校	5校	4校			1校

- ・市費学業支援員等の配置を計画的に進めてきたことにより、個の教育的ニーズに応じた支援ができています。各校においては、関係機関や保護者との連携・連絡を密にしていることで合意形成による長期的な支援方法も考えられています。
- ・対象児童生徒が増加傾向にあり、それに対応する学級や通級指導教室の確保、専門的な指導ができる教員の育成が課題である。また、障がい等で困り感のある人やその家族の相談や支援を、幼児から成人まで途切れのないものにするための機関や施設が望まれる。

(2)「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 道徳教育等の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「心を育てる道徳計画訪問」等による道徳の時間の充実
- ・「特別の教科 道徳」先行実施と実践による道徳の時間の充実
- ・学校行事や児童会、生徒会活動の工夫、体験的活動の工夫・発展による人間関係構築

【成果・評価】

- ・規範意識が高い。また、郷土を愛する気持ちの高まりがあり、行動にもつながっている。
- ・「自己を見つめる力」「困難を克服する強さ」「新たなことに挑戦する意欲」など、個々の弱さも感じられ、さらなる充実が必要。

② 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・管理職を柱とした生徒指導体制の構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）
- ・いじめ未然防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実
- ・生徒指導研究協議会や主幹教諭による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上

【成果・評価】

□いじめの認知件数

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
30件	18件	19件	34件	28件	117件	123件

- ・認知件数増加はいじめの定義が変更になったことによるが、学校において早期発見、早期対応の意識が高まったことの成果でもある。事案発生時の組織的対応も確立されてきた。
- ・市民活動推進課と協議しながら「下呂市いじめ防止等対策推進条例」等を作成中。

□不登校

種別	小学校				中学校			
年度	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30
人数	4	3	3	5	24	18	18	15
1000人当たり	1.2	2.5	1.9	3.3	32.3	26.2	20.4	11.9

- ・近年の状況では、小学校は横ばい傾向、中学校は減少傾向にはある。1000人当たりの出現率を見ても、国や県を下回っている。
- ・不登校の要因は複雑化している。専門家（SC、SSW）や関係機関との連携を密にするなど、組織的対応は不可欠である。不登校児童生徒の居場所づくりについても対応を継続したい。

③健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・毎朝の健康観察及び保護者との連携強化
- ・学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生参加）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化 ボランティアによる見守り活動

【成果・評価】

- ・児童生徒が主体的に健康管理できる態度と能力が培われるよう、健康指導に関する工夫がされた。
- ・命を守る訓練の充実、サポートスタッフ等による見守りの強化等、安心安全を基盤とした教育が展開されている。
- ・通学時の安心安全の確保については、関係機関や地域との連携は不可欠な状況である。（CS）

(3)その他の教育活動、研修事業

① 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の様子（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域の人材を活用した教育活動、地域に根ざした教育活動（郷土教育）の充実、発展
- ・地域貢献活動の拡充（市民活動推進課との連携）

【成果・評価】

- ・学校運営協議会設置校3校 → 地域と共にある学校づくりが進められている。
*H31：設置校13校 未設置校は準備委員会等立上げ *R2～全小中学校
- ・地域人材の活用や郷土教育を充実させるなど、地域と共にある学校づくりが展開されてきたことで、児童生徒に「ふるさとを思う気持ち」が生まれ、地域行事や地域ボランティアに参加する姿が多くなった。
- ・ふるさとジュニアサポーターが文部科学大臣賞受賞（地域貢献）

② 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業充実

【成果・評価】

- ・教育実践講座 夏季講座：9講座延べ317名
教育実践論文応募 14点
- ・教職員一人一人が研鑽に励み、資質向上している。

(4) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

・平成30年度 小学生80名、中学生77名

- ② 改築、修繕関係

- ・北部学校給食センター改築工事を実施した。（平成31年度へ繰越）
- ・小中学校空調設備工事实施設計業務を実施した。（工事費は平成31年度へ繰越）
- ・竹原小学校プール改修工事を実施した。
- ・中原小学校災害復旧工事を実施した。
- ・小坂小学校天窓改修工事を実施した。
- ・宮田小学校プールフェンス復旧工事を実施した。
- ・宮田小学校乗入道拡幅工事を実施した。
- ・尾崎小学校消防設備取替工事を実施した。
- ・上原小学校地下オイルタンクライニング修繕を実施した。
- ・萩原南中学校、下呂中学校、竹原中学校 高圧受電設備機器取替工事を実施した。
- ・萩原南中学校、萩原北中学校 LED照明への取替工事を実施した。
- ・萩原南中学校給食搬入口屋根改修工事を実施した。

平成30年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び評価

1-1.下呂市第二次総合計画の内容

〔基本目標〕 2.はぐくみ

〔基本施策〕 2-4.歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

〔目指すまちの姿〕

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2.第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財包蔵地の詳細地図作成

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
目標	60%の地区で現地確認	80%の地区で現地確認	全ての地区で現地確認	遺跡範囲の確定作業	遺跡範囲の確定作業	地図刊行準備編集	新遺跡地図編集製本
実績	実施萩原地域	達成馬瀬地域	達成小坂地域	遺跡範囲の確定作業	地図刊行準備編集	新遺跡地図発刊、県域統合型GISに登録	(H30に前倒しで達成)

内部評価：平成30年10月に発刊した「下呂市遺跡詳細分布調査報告書」をもとに県域統合型GISに遺跡の新範囲を登録し、平成31年4月からの運用を目指す。教育総務課窓口では土地家屋調査士や事業者による遺跡所在地の照会を正確に回答することが可能となった。⇒「目指すまちの姿②」

【成果を指標②】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
目標	目標設定年	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500
実績	14,445	15,410	14,744	15,306	17,449	17,574	—

内部評価：平成29年4月より同館に学芸員が不在となり、市で収集保存した文化財資料の展示入れ替えが実施できなくなっている。アンケート調査では、「子供向けの展示を」・「展示品の数を豊富に」・「周辺地域との関連性を踏まえた展示を」といった声が寄せられているが、その声に対応ができていない状況が続く。至近の大規模ホテルの開館による影響で入館者数は一定数を保っているが、数には現れない来館者の意見を汲み取る必要がある。今後、県内博物館勤務経験者を配置し、改善を図る予定である。⇒「目指すまちの姿③」。

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1.文化財保存修理事業助成費 国・県・市指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

【県指定】禅昌寺蔵白隠書跡 1 幅保存修理・同白隠筆絵画 2 幅保存修理

【市指定】万福寺龍の欄間保存修理、秋葉神社のスギ社叢補備、諏訪神社の社叢保護（被災）、東上田のフジ保護（被災）

平成 25 年度から平成 30 年度の 6 か年計画で禅昌寺蔵白隠書跡・絵画等を修理する計画に基づき、所有者が京都の修理専門業者に依頼し修理を行った。また、大型台風の影響により被災した天然記念物（樹木）が多く、平成 30 年度は 2 件の復旧工事を実施した。

2-2.指定文化財保護事業 市内指定文化財の巡視と現地指導・文化財の新指定と登録

⇒「まちの姿①」

【文化財審議会】1/17：新指定案件「紙本墨画山水人物図襖 狩野永岳筆」、市指定文化財の名称及び種別の変更に関する審議

【市指定文化財の現状巡視】保護巡視員 15 人による年 2 回の巡視

【国天然記念物保存修理事業の現地指導】12/13：久津八幡神社の夫婦スギ

平成 30 年度には江戸時代の幕末の作品「紙本墨画山水人物図襖 狩野永岳筆」が 2 月 22 日に重要文化財（絵画）指定され、市指定の重要文化財（絵画）は 32 件となった。国天然記念物「久津八幡神社の夫婦スギ」は倒木の危険があり、ワイヤーによる倒木防止工事を平成 31 年度に実施するため、文化庁調査官より現地指導を受けた。

2-3.加藤素毛記念館／金山郷土館／禅昌寺歴史資料館

今日まで地域に大切に伝わった収蔵資料の展示公開⇒「まちの姿③」

【加藤素毛】・【金山郷土館】地域の郷土史に詳しい人物による希望日開館と対応

【禅昌寺歴史資料館】埋蔵文化財出土品及び古文書等の収集保管施設

加藤素毛記念館は、遣米使節団の一員として活躍した「県重文加藤素毛の遺品」を展示公開する施設であり、「市政だよりげろ」でも漫画を連載する計画がある。金山郷土館とともに地元小学生の社会科見学先として利用されている。禅昌寺歴史資料館は市内の古文書・埋蔵文化財が収蔵保管されており、市外・県外の研究者による調査研究、県立博物館の展示借用の利用に供している。

2-4.博物館収蔵品調査保存整理事業 古文書や出土遺物を整理保存し新たな価値を発見

⇒「まちの姿③」

【市収蔵資料の調査整理と目録刊行による公開】萩原町村史料の調査整理と目録作成

【収蔵品を活用した講座・授業の実施】3 回連続講座×春・秋、萩原小学校「総合的な学習」授業支援、中原小学校・金山小学校での文化財講話

生涯学習講座「ふるさとの歴史講座」では、春に「萩原の村芝居」、秋に「江戸時代の山論」をテーマとし、市内で保存される建造物をはじめ収蔵古文書等が題材とされた。萩原小学校の「総合的な学習」では国指定建造物久津八幡宮の見学や収蔵古文書を利用した授業を行い、中原小学校・金山小学校でも江戸時代の古文書を題材とした。そうした機会を通じ、地域の保護者・児童・生徒に「今日まで大切にされてきたもの」を伝えることができた。定期的に刊行する収蔵品目録は、地域に伝わった大切な史料の内容を明らかにし、生涯学習講座・学校授業の基礎を成している。

平成30年度「生涯学習推進の方針と重点」についての点検・評価

生涯学習の基本理念

生涯学習は人づくりです。地域の主人公である市民は、学んだ英知を地域に還元し、原動力とすることにより市民主体によるまちづくりを推進しなければなりません。市民一人ひとりが生涯にわたって豊かな生活ができるよう学習し、その英知と努力を結集し、未来を築く生涯学習社会や活力ある地域づくりにつなげることを目指します。

基本理念として、3本の柱で活力ある生涯学習社会の構築を目指します。

- 自立・・・的確に判断し、行動・活動ができる人づくり
- 協働・・・仲間や地域で協力し、活動できる家庭・地域づくり
- 創造・・・伝統や文化の伝承と、変化を受けとめ新たに創り出す社会づくり

市の責務

市民が「参加したい、活動しやすい、そして喜びにつながる施策づくり」に努めます。

生涯学習の目標

- 1. 学習 : 自己をみがき、生きがいをもつ
- 1. ボランティア : 進んで活動に参加し、社会に奉仕する

分野別方針と評価

個別事業については、別表の「重点と評価」に整理していますが、分野別の主な事業について、次のとおり事業結果等をまとめました。

1. 家庭教育

【方針】下呂市の家庭教育は、子どもの自立と積極的で温かい心をもった子どもの育成、未来を担う子どもたちの人格形成の基礎を培うことを目指します。その実現に向けて、情報提供の工夫と支援プログラムの充実を図るよう事業を見直すと共に関係行政相互の連携を推進します。

(めざすこと)

①子育て支援、②乳児期から青少年期の段階に見合った子どもの育成、③こども園や学校、地域の連携による「家庭の教育力」や「地域参加」の向上、④公共心や規範意識などを身につけること。

主要な個別事業と事業結果について

○家庭教育支援総合整備事業

いのちのふれあい講座は中学生を対象に、妊婦体験や子育て中のエピソードを聴くことで、命の大切さを学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながっています。

家庭教育支援事業「UPカフェ、赤ちゃんカフェ」は、子育て中の母親を対象に開催し、親同士や支援スタッフとの語り合いの中で、子育て中の悩みや不安の解消、ストレスの解消に大きく貢献しています。

「親まなび講座」は、親子で様々な体験活動を行うことを通して、親子のコミュニケーションを図るだけでなく、子育てについてのさまざまな情報や手立てについて、親が学ぶ機会を提供できました。

様々な事業が行われていますが、保護者の事業参加への意識には格差がみられます。市民にもっと子育てについて理解を深めていただくために、事業の情報を発信していく必要があります。また、家庭教育については、地域や学校等との連携が必要ですが、まだ十分とは言えず、今後の課題となっています。

2. 青少年教育

【方針】生涯にわたる学習・生活の、基礎・基盤となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには社会変化に適切に対応できる能力や、たくましく生きるための健康や体力など、「共に生きる力」を身に付けることを目指します。その実現に向けて、教育機関や地域社会との連携を推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○青少年教育事業

下呂市青少年育成推進員はじめ市民による青少年育成市民会議により、少年の主張大会、青少年育成顕彰「わかあゆ賞」、英語スピーチコンテストを開催しています。

少年の主張大会では、中学生がふだん考えていることを自分の言葉で堂々と発表することで、論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力の育成を図りました。

青少年育成顕彰「わかあゆ賞」では、スポーツ活動、文化活動、奉仕活動の優れた活動を顕彰し、更なる活躍を願うとともに、広く紹介することで青少年の健全育成を進めました。

英語スピーチコンテストでは、自分の考えを英語で表現し、英語コミュニケーション能力の向上にも貢献しました。しかし近年、同様の目的の他のコンテストがいくつか開催されていることもあり、出場を希望する中学生、コンテスト当日に来場する中学生が減少しています。そこで、この事業を H30 年度限りとし、H31 年度は、幅広い年齢の子どもを対象に、国際的な視野を広げることを目的とした、市民参画型のイベントを開催する予定です。

○青少年健全育成事業

親子わくわく科学体験教室では、家庭や学校では体験できない科学の実験を通じて、子供たちが驚きや感動の体験を味わい、科学への興味を深めています。

ふるさとジュニアサポーター事業は、主に中学生が地域事業（イベントや福祉活動）にボランティアスタッフとして参加するものです。この事業を通じて、中学生の社会性の育成、自己有用感の高揚、地域への愛着と地域社会の担い手として自覚するなどの効果が見られています。地域においても将来的な担い手育成につながることを理解していただき、積極的な協力をいただいています。本事業は、教育委員会が進める学校運営協議会（コミュニティスクール）と連動する、地域と学校が協働して子供たちに幅広い社会経験の場を提供する、地域学校協働活動につなげてゆくものです。

3. 地域教育

【方針】社会構造の変化から、全国的な地域コミュニティの衰退が課題となっていました。近年、住民側、市民団体側からの再生の動きが注目されています。その背景には、次のようなことがあります。

①大災害などに備え、コミュニティの結束力を再構築する動きが広がっていること。

②市町村合併が進む中、「手作り自治会」運動がみられること。

③地域コミュニティ自体に活動の機運が強まっていること。

日常生活における最小コミュニティは家族ですが、地域社会とのふれ合いは豊かな家庭生活を築く大きな力をもっています。人々との交流の中で生まれる喜びの感情や災害などの事案に遭遇したときの相互扶助の役割は、地域コミュニティに大いに期待されるべきものです。地域コミュニティの重要性が唱えられてきた気運を高めるため地域自治会等の強化と連携を推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○生涯学習講座

春と秋の2回にわたり23講座を開設し、延べ1,171人が参加しました。生きがいつくり、仲間づくりを目的として例年同様の方式で開催しました。アンケート結果等により講座内容を要検討し、受講者人数を前年度より増やすことが出来き、受講者の高い満足度を得ました。今後

も受講者の増加を目指し生涯学習講座の魅力について広くPRを行います。

生涯学習の基本理念にもある「学んだ英知を地域に還元」については、引き続き課題です。

○公民館活動

金山地域の、菅田、金山、下原、東の4館が、春と秋の2回、17講座を開講し、延べ148人が受講しました。地域を繋ぐきっかけともなっており、地域づくりに貢献しています。

4. 情報教育

【方針】生涯学習の情報教育は、情報処理能力（情報活用、情報の理解、情報社会への参画）を高めることによって、市民が地域社会の中で主体性や創造性を発揮できるようになることを目指します。その実現に向けて、情報の共有、協働、ネットワークの整備を推進していきます。

◇ 市民の情報活用

課題や目的に応じた必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成。

◇ 市民の情報への理解

情報を適切に扱い、自らの情報内容の評価・改善するための方法、理解力の育成。

◇ 情報社会に参画

社会生活の中で情報が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について理解し、望ましい情報社会の創造に参画する。

主要な個別事業と事業結果について

○図書館運営

萩原、下呂、金山の3図書館、小坂の1図書室、馬瀬の1移動図書館を設置しています。蔵書数は、市民一人当たり、平成23年の2.3冊が平成29年度には3.2冊、平成30年度には3.3冊と年々増加し、充実してまいりましたが、一人当たりの貸出数は平成30年度で2.9冊と前年度よりは改善したものの依然県内平均値を大きく下回っていると思われます。（平成29年度は、下呂市は2.8冊で県内市平均の5.39冊を大きく下回っています。※現時点で県内平均値なし）

原因としては、図書館が、市民ニーズを正確に把握しきれていないためと、読書離れに対する有効な策が講じられていないため、利用が少ないと考えられます。図書館というと本を貸し出すだけのイメージがありますが、近年は利用者の求めに応じた情報提供や、情報を求めて集まる人たちの交流、そして人々を繋ぐ場所としての機能が注目されています。図書館のあり方について、研究が必要です。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価	
重 点（事 業）		（分野別教育）	アウトカム
社会教育事業 10040105	◇下呂市社会教育委員の会を開催し、市民活動推進課所管事務業の評価を行い、健全な事業運営に努める。 ◇社会教育関係団体（県・飛騨社教等）との連携	（3）地域教育 （4）情報教育	社会教育委員の会 4回開催 ・東海北陸公民館大会参加 ・生涯学習の基本方針の策定に関わる意見・提言 ・下呂市社会教育関係団体年度末登録団体数 135団体（前年度から5団体増） ・まちづくり人材バンクの登録件数 107件
青少年教育事業 10040201	◇少年の主張・英語スピーチコンテスト開催 ◇青少年顕彰（わかあゆ賞）の実施 ◇青少年育成市民会議の開催 ◇青少年文化等振興激励金交付 ◇立入検査（有害図書等）の実施 ◇人権学習資料の配布	（2）青少年教育 （3）地域教育 （4）情報教育	下呂市青少年育成推進員 15名 青少年育成市民会議主催行事 ①青少年育成市民会議 【H30. 6. 24実施】 ・少年の主張下呂市大会 市内中学校より推薦された6名が発表し、審査の結果上位2名を飛騨地区選考会へ推薦した。 ・青少年育成顕彰 わかあゆ賞 青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動を顕彰61名、3団体 ②英語スピーチコンテスト 【H30. 10. 5実施】 国際化時代を迎えて英語力や自己表現力の向上を図るもの市内6中学校の代表者が環境や国際交流などをテーマにスピーチ。 青少年全国大会出場激励金8名、40千円

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価	
重 点（事業）		（分野別教育）	アウトカム
青少年健全育成事業 10040205	◇子ども会活動の推進 ◇親子わくわく科学体験教室の開催 ◇下呂市青少年育成推進員会議 ◇ふるさとジュニアサポーター活動の推進	（１）家庭教育 （２）青少年教育 （３）地域教育	アウトプット (1)親子わくわく科学体験教室 市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」がボランティアで実務担当。 学校や家庭では体験できない科学を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会を作ることを目的として実施。 ①夏季の部 H30. 8. 4実施 参加者260名（参加児童120名、中学生ボランティア140名） ②冬季の部H30. 11. 10実施 参加者380名（参加児童220名、中学生ボランティア160名） (2) 青少年各種団体補助金 2, 292千円 ・子ども会等活動育成補助金 ・青少年健全育成推進会議補助金 アウトカム ・子ども会活動では、大きい子が小さな子の世話をしたり、近所のおじさんおばさんと触れ合ったりするなど貴重な体験ができています。 ・親子わくわく科学体験教室では、学校や家庭では体験できない実験を行い、驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいの場をつくることができました。 ・青少年育成推進員会議では、市民会議や英語スピーチコンテスト運営だけでなく、学校と地域が連携し子供たちの成長と安全を見守っていく活動を推進していくことを確認しています。
成人式開催 10040209	◇成人式の開催（旧町村単位で行う）平成31年 1 月12日（土）、13日（日）	（２）青少年教育 （３）地域教育	成人式開催（５地区）329人参加 平成31年 1 月12日（土） 萩原 122人 馬瀬 12人 金山 57人 平成31年 1 月13日（日） 小坂 24人 下呂 114人 各地区にて成人を迎える子供たちを集めて実行委員会をひらき、成人式の内容を決めています。成人を迎える子供たち自身で成人式を作るため地元の良さを再確認できます。
山之口キャンプ場管理運営 10040213	◇山之口キャンプ場の維持管理。利用期間は 4 月から10月	（２）青少年教育 （３）地域教育	平成30年度利用者 215人 前年度比 67. 6% ※開設期間 4 月～10月 市内学校はもちろんのこと、市外の利用者にも利用いただくことができました。また、市交流キャンプの拠点にもなっており、青少年における野外施設としての機能を果たしています。30年度は豪雨により利用者減となりました。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
下呂市交流キャンプ開催 10040221	◇下呂市交流キャンプを実施（山之口キャンプ場を会場にして市内の小中学校児童生徒から希望者） ◇ジュニアリーダーの資質向上と青少年の健全育成 ◇子ども会活動の充実を図る。 ◇参加想定人数：110人	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育	下呂市交流キャンプ開催 市内の小中学生が集い、野外活動を通じた青少年の健全育成を図ると共に、ジュニアリーダーの指導技術向上を目的に開催。 ①ワークキャンプ7月28～29日実施 交流キャンプは台風接近により中止 ②参加者 (ワークキャンプ) ジュニアリーダー18人、 シニアリーダー7人 (交流キャンプ※参加予定者) 市内小中学生30人(4年生以上) ジュニアリーダー14人、 シニアリーダー5人	下呂市ジュニアリーダーズクラブを中心にキャンプを行うことにより、シニアリーダーは育成指導者としての成長、ジュニアリーダーは計画立案、準備、当日の運営や参加児童の指導等をする立場を経験することで個人の成長につながりました
社会教育活動推進事業 10040301	◇P T A活動の推進支援 ◇生活学校活動の推進支援（金山）	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	社会教育関係団体補助金 542千円 【対象団体】 市P T A連合会 金山町生活学校	市文化協会連絡協議会については、平成30年度から、事務運営経費を補助金として支出し、自主的な運営に移行しました。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		（分野別教育）	アウトプット	アウトカム
家庭教育支援総合整備事業 10040305	◇親学び講座（父親参加の体験型講座を含む） ◇命のふれあい講座 ◇企業内家庭教育研修会 ◇家庭教育支援事業（下呂市家庭教育支援チーム） ◇子育て支援の連携会議による家庭教育相談体制の強化 ◇社会教育主事2名の配置による推進体制強化の継続	（1）家庭教育 （2）青少年教育 （3）地域教育 （4）情報教育	(1)親学び講座 親学び講座 11回開催 287人参加 (2)下呂市家庭教育支援事業 UPカフェ・赤ちゃんカフェ 支援チームスタッフ 10人、 開催24回、延べ参加者817人 小坂地域1回、萩原地域7回、 馬瀬地域1回、下呂地域8回、 金山地域7回。 (3)命のふれあい講座 市内6中学校にて33回、 参加者1077人	親学び講座では、親子で様々な体験をすることを通して、親子のコミュニケーションづくりを図り、子育てのヒントとなる情報や手立てを学び機会を作りました。 UPカフェ・赤ちゃんカフェでは、保護者同士や保護者と支援チームスタッフとの語り合いの場をつくり、子育て中の母親の悩みや不安の解消、ストレス発散を図りました。 命のふれあい講座では、市内中学3年生全員が、命の大切さ等の学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながりました。 家庭教育については、地域や学校などとの連携が必要であるが、現在はまだ十分とは言えず、今後の課題です。
生涯学習講座 10040309	◇生涯学習講座の開催 ・参加者 延べ2000人を見込む ・前期（5～9月）13講座を募集し、11講座を実施 ・後期（10～3月）13講座を募集し、12講座を実施	（1）家庭教育 （2）青少年教育 （3）地域教育 （4）情報教育	講座の実施状況 ◆萩原 ・前期4講座70人 延166人参加 ・後期3講座24人 延151人参加 ◆下呂 ・前期6講座126人 延576人参加 ・後期5講座 98人 延251人参加 ◆金山 ・前期1講座6人 延6人参加 ・後期3講座34人 延109人参加 ◆小坂 ・前期：なし ・後期1講座4人 延12人参加 ○合計 ・前期11講座202人 延748人参加 ・後期12講座160人 延423人参加	生きがいづくり、仲間づくりを目的として例年同様の方式で開催しました。アンケート結果等により講座内容を要検討し、受講者人数を前年度より増やすことが出来き、受講者の高い満足感を得られました。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事 業）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
公民館活動 10040401	◇公民館条例に規定する公民館活動 ◇各公民館独自開催による講座の開催	(3) 地域教育 (4) 情報教育	◆東公民館 ・前期 2 講座12人 延12人参加 ・後期 3 講座15人 延15人参加 ◆菅田公民館 ・前期 2 講座27人 延27人参加 ・後期 1 講座14人 延14人参加 ◆下原公民館 ・前期 2 講座26人 延26人参加 ・後期 5 講座41人 延41人参加 ◆金山公民館 ・前期 1 講座 8 人 延 8 人参加 ・後期 1 講座 5 人 延 5 人参加 ○合計 ・前期 7 講座73人 延73人参加 ・後期10講座75人 延75人参加	金山地区 4 公民館ともに公民館主事が中心となり、多くの講座を開催することで、子どもからお年寄りまで楽しく学べる機会を創出することができました。金山地域の公民館活動は地域を繋ぐきっかけ作りにもなっており、他地域の公民館が学ぶべきことも多いです。
公民館施設管理 10040405	◇市内10か所の公民館管理。 ①山之口公民館 ②あさんず会館 ③湯屋地区公民館 ④竹原公民館 ⑤上原公民館 ⑥中原公民館 ⑦下原公民館 ⑧東公民館 ⑨菅田公民館 ⑩馬瀬中央公民館	(3) 地域教育 (4) 情報教育	施設の利用状況 山之口公民館 1,452人 前年度比95.2% あさんず会館 3,842人 前年度比89.1% 湯屋地区公民館 2,386人 前年度比94.8% 竹原公民館 8,363人 前年度比106.04% 上原公民館 3,050人 前年度比117.4% 中原公民館 3,245人 前年度比81.7% 下原公民館 6,507人 前年度比99.4% 菅田公民館 3,127人 前年度比89.9% 東公民館 1,148人 前年度比78.7% 馬瀬中央公民館 1,842人 前年度比353.5% 計 34,962人 前年度比100.4%	適正な維持管理を行い、例年同様に運営することができました。地域行事の実行委員会会議や、特定健診の場となっています。いずれの公民館も地域コミュニティの中核となっていることがわかります。上原公民館、竹原公民館の利用人数の増加割合が高かったです。 ※馬瀬は29年度耐震工事のため2か月間の使用であったため前年度費が大きい。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		（分野別教育）	アウトプット	アウトカム
公民館施設維持補修 10040409	◇市内7カ所の公民館にかかる小規模修繕	（3）地域教育	公民館軽微修繕 516千円	適正な維持修繕を行い、利用者にとって利用しやすい条件を整えました。
図書館運営 10040501	◇図書館（はぎわら、下呂、金山）及び図書室（小坂、馬瀬）の運営 ◇新刊図書購入費、図書システム運用管理 ◇資料の充実、雑誌・月刊誌の充実 ◇広報活動	（1）家庭教育 （2）青少年教育 （4）情報教育	・蔵書数 H29 106,264冊 H30 109,592冊（↑） ・登録者 H29 8,898名 H30 9,293名（↑） ・年間279日開館（はぎわら図書館）	蔵書数、登録者数は増加し、年間貸出数も増加しています。今後も積極的な集客事業を行っていきたい。
響会館施設管理 10040705	◇響会館の管理運営の見直し（指定管理） ◇主たる利用者は萩原地区太鼓4団体（社会教育登録団体）	（2）青少年教育 （3）地域教育	施設の利用状況 利用者数1,745人 前年度比96.0%	施設の維持・管理をおこなっています。
位山自然の家管理運営 10040801	◇位山自然の家の管理運営 一部管理委託、下呂市内小中学校のセカンドスクールとして森林体験事業等での利用。開設期間4月～11月 ◇指定管理を検討	（2）青少年教育 （3）地域教育 （4）情報教育	平成30年度利用者 5,245人 前年度比 108.6% ※開設期間4月～11月	市内学校はもちろんのこと、市外の利用者のリピート率も高く、施設の良さや、施設を取り巻く自然環境の良さが評価されています。また、地元スタッフのあたたかなおもてなしも光り、利用者にとって、思い出に残る施設となっています。
いきいきセンター管理運営 10040809	◇いきいきセンター管理運営（※教育施設から除外の方針で検討）	（3）地域教育	平成30年度利用者802人 ※前年度比 63.0%	適正な維持管理を行い、利用者にとって利用しやすい条件を整えました。 30年度は豪雨災害により2ヶ月間使用できない期間があったため利用者の大幅な減となりました。
社会教育施設維持補修事業 10040813	◇社会教育施設の小規模修繕、維持補修 ◇響会館（管理移管に向けた整備） ◇位山自然の家・いきいきセンター・山之口キャンプ場・響会館	（2）青少年教育 （3）地域教育	修繕 ◆位山自然の家 ・ボイラー用オイルタンク修繕148千円 ◆その他軽微修繕236千円	各社会教育施設において、適正な維持修繕を行うことができました。